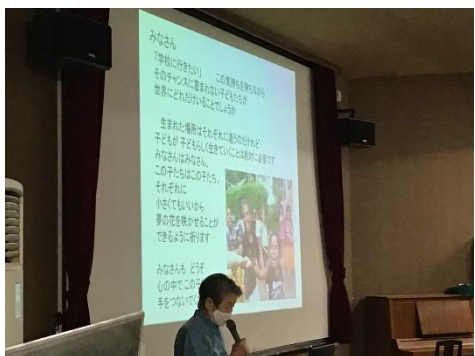


中学二年生の「学年の時間」では、9月より「自分の価値観を疑う」として連続授業を行っております。その第3回目は「貧困」がテーマです。SDGsの第1番目に掲げられている「貧困をなくそう」という目標にも顕著なように、「だれ一人取り残さない」社会を実現するために、この問題に目を背けることはできません。



11月27日(金)中学二年生の「学年の時間」では、「国境を越えてすべての子どもに教育と友情を」をビジョンとして、世界の子どもたちを支援する

活動を続けている認定 NPO 法人「国境なき子どもたち」の会長、寺田朗子さんをおむかえしてお話を伺いました。

寺田代表はこれまでに何度も山手学院にお話に来てくださっています。「国境なき子どもたち」では長く、ストリートチルドレンなど貧困にあえぐ子どもたちが教育と友情を得て自分自身の力で自立していくことを支援しています。寺田代表はこの日、カンボジアのストリートチルドレンだった子どもが職業訓練を受けて作成した、鮮やかなブルーのブラウスをお召しになっていました。その色とお名前のように明るい元気なお人柄は、会場に入ってこられたとたんに周囲の雰囲気をもパッと明るくするほどで、長く厳しい環境に自ら赴いて支援を続けられて来られたのは、このように理念に燃える情熱あつてのことなのだと思えて感じることができました。



「学校に行きたい」と願いながら実現できないでいる世界中の子どもたちが夢の花を咲かせられるよう、心の中で手をつないでほしい、というお言葉には、世界中の子どもたちが夢に向かって共に成長していく強い願いが込められていると感じました。

同じ世界、同じ時間を生きる人間として、共に成長する社会を実現するために自分たちは何をすべきか、事後の学習活動で考察していきます。寺田会長、ありがとうございました。